

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 783 号	氏名	森本 陽介
学位審査委員		主査	川上 純
		副査	石松 祐二
		副査	小関 弘展
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、ステロイド筋症に伴う筋萎縮の進行を予防する方法として温熱刺激の可能性を解析したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 Wistar 系雄性ラットを用い、生理食塩水を投与する Control 群 (n=10)、ステロイド剤を投与する Dexamethasone (Dex) 群 (n=10)、ステロイド剤を投与し温熱刺激を負荷する Dex + Heat 群 (n=12)の 3 群に振り分けた。2 週後に麻酔下にて速筋線維で主に構成される長指伸筋を採取し、筋線維のタイプ (I・IIa・IIb 線維) の分別、筋線維直径と毛細血管数の計測、heat shock protein (Hsp) 72、筋特異的ユビキチンリガーゼの muscle RING finger 1 (MuRF1)と atrogen-1、vascular endothelial growth factor (VEGF)、endothelial nitric oxide synthase (eNOS) の発現を評価し、ステロイドと ubiquitin-proteasome system (UPS)、血管新生との関連を解析しており、研究手法は妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、ステロイドで低下した筋線維直径と毛細血管数は温熱刺激で改善し、ステロイドで亢進した MuRF1 ならびに atrogen-1 の発現は温熱刺激で低下した。Hsp72 と eNOS 発現は温熱刺激で亢進し、今後のステロイド筋症に伴う筋萎縮の進行の予防研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文はステロイド筋症に伴う筋萎縮進行の予防に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p>			